

町政を問う!!

10 議員が質問・提案を

一般質問とは、町政全般について、フリーテーマで行政側に質問するもので、議員の権利のひとつとなっています。

子育て支援

小児科・町独自の取組は

6市町村で協力して行く



議員 本 哲也 氏

問 子どもに必要な医療機関が、幡多郡内から減少している。産婦人科から小児科と住民に愛された病院が少なくなっている。これからの行政としての取組みについて問う。

四万十市民病院の空スペースで12月から小児科を開業することだが、当町に何か補助の依頼はあるか。

答 河村地域住民課長

少子化や医師の高齢化などの理由により病院数

が減少し、危機的な状況だと承知している。幡多福祉保健所管内のみならず、県下の郡部でも同じ状況を抱えており、今後出産される方や、子育て中の保護者が、かかりつけ医の不足に不安を抱いているという声も聞か

がっている。周産期医療、小児科医療を力バーする体制作りが重要であると捉えているが、町単独での取り組みは難しい。県と幡多地域全体で考えて行かなければならない問題であり、昨年11月に幡多6市町村が集まり、危機的な状況について共有するとともに、これからも協力して取り組んで行くことを確認している。

今回の四万十市の小児科の開業については、特

に補助金等の依頼は受けていない。今後補助金等の依頼があれば、その際協議が必要になる。

問 地域子育て支援センターの役割がこれから重要になってくると思うが、これからの施設の在り方について問う。

答 岡本教育次長
現在、大方中央保育所内に併設して毎日実施している。

佐賀地域では、旧佐賀保育所「みらい」で定期的に開設している。子育て支援センターは、保育所同様に重要な役割があると考えている。

今後も充実していくことが必要だと思っており福祉部門とも連携をしながら進めていく。

問 県内でも補助、無料の市町村があるが当町でもインフルエンザワクチンの予防接種を無料にできないか。

答 野村健康福祉課長

県下34市町村の内の半数が一部もしくは全額補助をしている。

当町の子ども全員が予防接種を実施した場合、年間420万円を超える金額が必要になる。国の統一的な予防接種法に含まれていないことから補助、無料化についての予定はない。

現在は予防の方に力を入れ、手指の消毒、人の集まる場所にはいかないなど指導していきたい。



12月に小児科を開業予定の四万十市立市民病院（令和7年3月）